

平成 20 年度農薬飛散リスク評価手法等確立調査検討会（第 1 回）
議事概要(案)

1 開催日時及び開催場所

日 時：平成 21 年 1 月 6 日（火）10：00～12：10

場 所：法曹会館（富士の間）

2 出席委員（敬称略）

有田芳子、上路雅子、佐藤洋、白石寛明、福島哲仁、福山研二、堀江和臣、
宮井俊一、森田昌敏

3 会議の概要

座長の選出に先立ち、本検討会の開催要領（案）が原案通り了承され、（案）をとることとされた。

（1）座長の選出について

座長には、昨年度に引き続き森田昌敏委員が選出された。

（2）平成 20 年度モニタリング調査について（中間報告）

調査実施事業者の（社）農林水産航空協会より、資料 3 の平成 20 年度モニタリング調査業務の中間報告（案）について説明が行なわれ、その後、委員による議論が交わされた。委員からの主な意見・要望等は以下の通り。

農薬飛散範囲調査においては、散布量の物質収支の様な定量的な概念も含めた考察を追加すること、風下側で飛散が 0 となるところまで追跡されていないことから、風速と距離による飛散量の減衰について、既存の文献等を参考に補完しながら、取りまとめることとされた。

農薬検出期間調査においては、それぞれの農薬の成分投下量を明示すること、散布したエアロゾルがどの程度残るかに焦点を当てて、他の情報も合わせてデータを整理すること、土壌中における消失期間について、半減期等を用いた考察を追加することとされた。

除草剤散布後気中濃度調査については、気中のグリホサートの捕集剤が適当だったかどうか、分析法の妥当性を検討すること、土壌中でのグリホサートの分解性や挙動について、文献等からの情報を追加することとされた。

（以上）